



ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029
北海道岩見沢市9条西6丁目
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします



新会長より

この二ヶ月間、日を仕切って大勢の皆様が準備ひのきしんに来て下さり、大教会が活気を取り戻したように感じました。本当にありがとうございます。また、奉告祭に真心のお供えをお寄せ下さり心より御礼申し上げます。私事ですが7月より皆様のお教会へ参拝に行かせて頂き有難うございました。祭典日が重なる関係で平常の時間に参りましたが、お陰様で今日まで三十九名称の親神様、教祖、御霊様に任命の御奉告が叶いました。まだまだ大教会でお会いできる日は遠いかもかもしれませんが、今の私に出来る事をしたいと思えます。この度の奉告祭では記念品の他に、記念誌として、過去から現在までの夕張の歴史をまとめた『写真集』が夕張編集部より出版されます。懐かしいご先祖様のお顔から、今を生きる私達や子ども達まで、未来に残る宝となりますのでどなた様も是非お求め下さい。部内教会には1冊ずつ贈呈いたします。

お知らせ

六代会長就任奉告祭 9月4日(土)10時開式
少年会総会オンライン 9月20日(月・祝)
※ご告辞代読 よろづよ八首 お楽しみイベント

七月月次祭の様

7月の中旬から北海道は、前例のない暑さに見舞われた。内地並みの猛暑で大変な思いをした人も多かったと思うが、15日の祭典日岩見沢はさほど気温が上がらず、心地の良い天気の下、月次祭が挙行された。

この日、本部からは喜多秀和世話人先生が巡教下され、祭典前に来会された。9時半より開扉献饌、その後祭儀式が執り行われ、新会長が大教会長として初めて祭文を奏上し、今後の更なる成人を誓われると共に、来たる奉告祭への決意を高らかに述べられた。

それから座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、喜多先生が見守る中で、奉告祭本番さながらの緊張感の中、勇んだおつとめが勤められた。喜多先生は中段教祖側にお座りになり、おつとめの間奉仕員の動きを逐一チェックされ、奉告祭へ向けての注意点や改善点を探して下さっていた。

講話の前に辞令交付があり、千葉有理絵さん（北弘）が新たにおつとめ奉仕員に登用され、会長から辞令を受け取った。講話には喜多世話人先生が立ち、新会長に替わった夕張大教会のこれからの通り方と、コロナ禍における私達よふぼくの心構えを切々とお説き聞かせ下さ

った。（講話は別項参照）

祭典終了後、喜多先生より、おつとめの改善点や奉告祭の準備状況について、お仕込み頂いた。客間にて昼食を召し上がり、昼過ぎに出発。空路にて帰路に着かれた。

七月月次祭神殿講話 世話人・喜多秀和先生（要旨）
陰徳を積み、いんとく 価を以てあたひ コロナ収束のお願いづとめを

まずは、新会長さんにおめでとうございます、と申し上げたい。これから夕張をリードしてもらおう方ですので、成人し続けるということは、大教会の発展に繋がるし、後に続く皆さん方も大いに頑張れると思います。今度の会長さんをお願いしたのは、今の自分に飽きたらまず、常に挑戦して頂きたい。もし仮に失敗しても、あとはカバーしてくださいから、自分が成長するためにチェンジし、チャレンジする。この2つを常に心掛けると、夕張大教会もこれから大きく勢いが出てくると思います。そのためにはどうしても、敵を作るダメなんです。この方は話が合わない、というのでは、

それからの一歩前進がありませんので。敵をつくらない。あなたと一緒にやろうよ、ということとを、大きく心を持って、皆さんと一緒に成長して頂きたい。修理人巡教で、北海道、福岡、東京に巡教に行かせてもらった。共通して言えるのが、前会長が一步引いて現会長に、という気持ちは分かりませんが、十歩も二十歩も下がってしまったって、骨抜きになつている前会長夫妻が多いと思います。よふぼくというのは会長を交代してもよふぼくしかも新会長以上におたすけも苦勞もしておられる。理はちゃんとしつつ積んであるのです。だからおたすけの面で、第一人者として前会長夫妻が頑張つて

欲しい。

コロナのお陰で、諸行事がみんな中止されています。今までは私の教会でも行事に参加して、忙しく走り回る事によって、教会としてまとまらなくなって、という風に自己満足してしまっただけ、今はにをいがけに出れない、行事も出来ない。自分が教祖に喜んでもらう生き方かど



うか、ちょっと不安になつてきます。自信を持って信仰をさせてもらう為には、何もできない時期にこそ、自己点検を一番出来るチャンスだと思えます。おふでさきを紐解きますと『このよふにやまいとゆうてないほどに、みのうちさハリみなしやんせよ』（二号23）とあります。神様の思いとどこが食い違つてるのか、ということのみんなが深く自己反省し、チェツクしなければ、という意味です。そして『いま、でも神のゆう事きかんから、ぜひなくをもてあらハしたなり』（二号26）。神様も旬々に応じて色々教えて下さつてるけども、人間にそこから何かを悟ろう、という気持ちがあれば全然駄目なんです。人間は身の障りがない事には、日々の御守護への感謝とか慎み敬いの気持ちをなくしてしまつている。だから自分の運命は自分でままならない、という風になつてしまうので、しっかりと思案をしなければ、と思う訳です。元治元年、飯降伊蔵さんの奥さん、おさとさんが産後の患いがひどくなりまして、一時期危なかつたんです。それを教祖におたすけ頂いて、教祖のところにお礼に行かれた。奥さんが死にかけているところを助けて頂いたから、本当に嬉しいんです。だから本当に教祖を命の恩人と思ひ、お礼に通つておられた。

から教えられた。これは天理教のどこの本にも載つてないのです。飯降家には教祖からこういう風に教えられた、と代々飯降家の方達は実行されてきた。だから飯降家の文書として残っているのです。陰徳を積むということは、伊蔵さんだけの話じゃなくて、私たちがみんなに教祖が仰つていふことと一緒にです。ただ、飯降家はそれを代々伝えてるけど、ほかのところでは、『いい事しなさいね』という程度にしか聞いてなかつたのでしよう。伊蔵さんは、おさとさんを助けて頂いた。嬉しい。そして御礼の気持ちで仕事に行つて、教祖の所に御礼の参拜に行つて、教祖から一言二言お話を聞かせてもらつて、ひのきしんをして帰る、そういう毎日を19年間続けられたんです。

『続くが道』というけど、本当に教祖から聞いた一言をずっと続けるということは難しいんです。この辺が後に本席様になられる理を作られた。考えてみたら、理というのは言葉を変えるカードのポイントと一緒。ポイントカードのポイントと一緒に。私たちがよふぼくも、教祖からポイントカードを持っていて考えると褒められていない。それは人から褒められていないようではだめな

んです。

よろづよ八首の中に『そのはずやといてきかしたことハない』とあります。知らない人はどうしようもないんです。また神様は『どのよふなむつかしくなるやまいでも つとめ一ぢよてみなたすかるで』（十号20）と仰ってる。おつとめはずごい力を持つておりますが、知らん人は分からない。知ってる私達がお願いづとめをどうやってつとめるかが、今一番大事なんです。なんでもいいからおつとめしたらいい、というのじゃなくて、おさしづで『価を以て実を買うのやで』（明20・1・13）とも言つておられる。天の理から言つてみたら、まずこちらが出すものを出して、欲しいものを手に入れる訳です。だからお願いづとめをして、その願いが叶うか叶わないかは、それまでに積んだ陰徳の差なんです。

私の親父が戦争に行つて、命の無いところを三回も助けてもらつてるんです。親父は今の真柱室勤務をしていて、真柱様の御命で上海に船で渡りました。夜寝てたら、ガガンと大きな音がして、海中を漂つてた機雷に客船が触れて、穴が開いてしまつたんです。親父は一番下の客室におりまして、逃げ出そう

と思つたら、出入口が押し合いへし合いで塞がつてる。これはもう俺の命無いな、ということだ。諦めて、オーバーを着て荷物を持つて、さてどうしようかなと振り向いてみたら、乗客は上に抜けてしまつて、誰もいなくなつていました。今がチャンス、と開いた出入口から昇つたら、船は横倒しになつて船の縁が歩けるぐらいだつたそうです。救命ボートが、船から離れてどんどん逃げていく。ただ1隻だけ留まつてたんです。その上で軍人がサーベル抜いて、この中でボート漕げるやつおらんかつて、それで「自分漕げます」つて言つたら乗せられて、一晚中ボートを漕いでたと言ふんです。手はズルズル剥けて血まみれでボートを漕いでたんですね。船が沈んだ後には大きな渦が湧くので、救命ボートで離れた人だけが助かった。これが一回目です。

いよいよ戦争が始まりました。親父は上海に行つてますから、現地招集と言つて上海で召集令状を受け取つた。それで2年間ある村を大きな隊で守つてた。2年間本当に騒ぎらしい騒ぎが一つもなかった。この村は安全だということで、もうちよつと危険な所へ行くと命令が下り、

その命令に従つて夜間行軍したんです。代わりに別の隊がその村へ入つてきて、その晩に敵襲があつて全滅したそうです。前々から計画された襲撃だつたそうです。だから次の朝早く出ましよう、なんて言つてたら、夜襲を受けて親父たちの隊も全滅してる訳です。これが二回目です。

戦争がだんだん末期になつてきて、南方戦線が兵力不足していると言ふ事で、我々も行かなきゃいけないらしい、という噂をしてた。それで次の日の朝出発という時に、夜中に将校が「この兵舎にいる人間だけ、明日は起床時間に起きるな」と言ふんです。軍の輸送船が、定員より50人ほど多すぎる、これ以上乗つたら船が沈んでしまう、ということだ、たまたまその兵舎にいる人間が50人だつたんです。それで、その朝は起床ラッパが鳴つても、その兵舎の人ははずつと寝てました。その後、出港したその船は魚雷攻撃を受け、沈みました。これが三回目です。

戦争が終わつてから武装解除をされて、軍から配られたタバコを公園で売つて、それで命を長らえてた。なんですすぐ日本に帰つて来ないかつて言つたら、

本土は爆撃を受けて子供は殺され、建物は全部やられたと、いう噂が来ていた。帰つたところで、みんな死んでるやろ、と思つて公園でぼけつとしてた。ある冬、風がビューッと吹いて、足元に古新聞が絡みついた。見てみると、日本語の新聞で、本部の写真が載つとる。建物みんな壊されたという噂だつたけども、そうじゃなかった。すぐ手

続きをして日本に帰つて来た。ちようど春季大祭のおつとめが終わつて、教祖殿に御礼の参拝の道中で、親父が帰つて来た。真柱様に『ただいま帰りまして』つてご挨拶したら、『おお、帰つてきたか』と喜んで下さつた。それは古新聞が足にまわりつかなくなつたら、気付かないで今まだ中国に居つたかもしれない。そしたら、私生まれてないんですよ。願わなくとも神様が助けてくれる世界があるという事です。

いざ困つたら神頼みするんですが、願うだけでは叶わない。コロナが収まるようにお願いしても、私達に理がなければ、神様はお聞き届けて下さらない。価を以て実を買う、陰徳を積みなさい、とは、そういうことなんです。私達が本席様のようにしっかりと徳を積んで、人から褒

められない中をこつこつと、なんでもないことをやり続けることでポイントが貯まつて、いざという時に溜まつた徳に応じたこうのうの理が働いて願いが叶えられる。そういう信仰だと思ふんです。

私達はどうしたら陰徳を積めるか。つとめとさづけ、ひのきしん、たんのう、それからをいがけ。どこからでもやろうと思つたらやれるんです。そのことを一遍か二遍やつたら、このうがなかつたので止めた、それでは駄目。続くは道なんですから、続けなかつた徳は積みない。と考へたら、倦まずたゆまず教祖が仰つたことを実行し続ける。

教祖から喜ばれる日々を過ごしているかどうか、自分達の日



常生活でチェックせないかん。そうすると、いざという時に、神様が守って下さる。これが天理教の信仰の一番神髄だと思います。願わずとも神が助けて下さるのです。私たちは陰徳を積む、そして危ないところを助けてもらったら、これで一旦チャラ。ゼロになったと思って、また一から積む。こういうことを繰り返していることによって、奇跡不思議が起こるのだということ。お道の先輩達はみんなそうやって理作りをして、奇跡不思議が起こり、助からん人が助かった。

私自身は、名古屋の中村で生まれています。親父が名古屋に布教に行った時の子です。出産の時、袋を被ったまま出てきたんです。私を取り上げた産婆さんが前日取り上げた男の子が、同じように袋を被って出てきた。どうしていいかわからず、あたふたしている内に、息絶えてしまった。これはいけない、というので、その日の内に大学の先生の所へ行って、対処法を聞いてきた。そして次の日、私も袋を被って出てきた。もしその時に産婆さんが聞きに行ってくれてなかったら、私も死んでるんです。それは母親もそんなこと知りませんよね。うちの親父も

産湯を沸かす為に一生懸命火を燃やしてる最中ですから、願ってないんですよ。それでも助かったというのは、やはり助かる理というのは陰徳を私達がかんだけ積んでいるかと思えます。

このコロナの世界の状況も、いくら神様が陽気づくめになりなさいよと言っても、私達は陰徳を積もうとしない。だから、是非なく思って表されたんです。私達がかんだけ実行するか。そして実行した人達が、心ひとつにお願いとめをすれば、これは当然このうがあるはずですよ。陰徳を積まないで、なんとか助けてくれとお願いでみても、このうがないんだから、何十回やつても一緒です。お道の者が陰徳を積みながら、お願いとめを続ける。これをどこの大教会でも続けてきたら、不思議なご守護が現れるのです。

『ひながたの道を通らねばひながた要らん』(明22:11:7)と仰つてる。ひながたをなんで残してくださいと残して下さったかと言うと、私達が実行するために残して下さったんです。教祖だけのこと、思い間違つてる。日々、私達が実行し続けるか。私も必ず廻廊ひのきしんをした上で、お願いとめをしています。まず

は、自分一人からです。自分一人が出来ないで、どうしてみなが出来るんです。だからそれぞれが、教祖と自分という関係に立ち直つて、少しずつ実行し続ける。その人たちがお願いとめをして、それが集まることで、すごいこのうが出てくる。私たちの実行力によって、おつとめを有効たらしめて、コロナの収束をぜひ早くともしたいというところなんです。

第50回 祝梅若人会 夏季練成会

8月7日祝梅分教会において夏季練成会を開催、少年会員7名を含む総勢35名が参加しました。

今年は50回目となる夏季少年



練成会でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底しつつ何とか行事が実施出来るようにするために、行事内容の見直しや活動時間の短縮など考えた結果、約3時間程度の活動内容として無事に実施することが出来ました。

実施した「野外活動」では水鉄砲を使用した鬼ごっこを行い、「教話」については会長様にお話していただきました。次に「座りづとめ」は3才から11才までの少年会員に座りづとめの手振りを練習し、閉講式を行い終了しました。

例年とは異なり、食事やお泊りが無く短い行事内容でしたが、会員の皆さんが元気一杯で過ごさせていたただいたひと時でした。
若人会委員長 伊藤伸幸

庶務部 7月

▽教養掛

7月 藤田 豊(幌都)

8月 前半 岩佐善昭(志加ノ谷)
後半 竹田 勲(馬追)

大教会日誌抄7月

- 1日 たすけ推進会議
- 2日 就任奉告祭実行委員会
- 2日 会長、教区会議
- 7日 タイヤシヨベル車庫・屋根修理ひのきしんく5日
- 7日 ひきよせ編集く13日
- 10日 会長、保護司例会
- 13日 月次祭準備く14日
- 15日 月次祭
- 19日 喜多世話人先生ご来会
- 19日 会長、札幌分月次祭参拝
- 21日 子ども食堂準備
- 22日 会長、教区青年会ハートクリン(日高支部)
- 23日 子ども食堂
- 23日 会長、おちばへ
- 24日 前会長、御本部神殿当番
- 26日 本部月次祭
- 27日 遥拝式
- 27日 会長、かなめ会
- 31日 会長夫人、おちばへ
- 31日 会長夫妻、おちばより帰会